

通期の見通し

平成 19 年度の販売電力量については、10 月から 12 月における産業用の大口電力を含む特定規模需要の増加などにより、平成 19 年 10 月に公表した想定値（2,967 億 kWh）を上回る 2,969 億 kWh（前年度比 3.2% 増）を見込んでおります。

売上高については、前回公表した想定値（連結：5 兆 4,700 億円程度、単独：5 兆 2,200 億円程度）を変更しておりません。

一方、費用面では、電気事業において、前回公表した見通しより、さらに原油価格が上昇したことなどから、燃料費が大幅に増加することなどが見込まれます。

これらにより、経常損益は、前回公表した想定値（連結：800 億円程度、単独：300 億円程度）を変更し、損失として、連結で 300 億円程度、単独で 850 億円程度になるものと見込んでおります。

また、当期純損益は、経常損益が悪化することなどから、前回公表した想定値（損失として、連結：950 億円程度、単独：1,200 億円程度）を変更し、損失として、連結で 1,550 億円程度、単独で 1,850 億円程度になるものと考えております。

< 連結 >

売上高	5 兆 4,700 億円程度
経常損益	300 億円程度
当期純損益	1,550 億円程度

< 単独 >

売上高	5 兆 2,200 億円程度
経常損益	850 億円程度
当期純損益	1,850 億円程度